

## 「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

### 第 127 回

『スピリチュアル・フレンド ～ 運命的な出会い ～』

2022年9月15日、筆者は、東京女子大学の評議員会、理事会に赴いた。大変有意義な充実した時であった。10月20日東京女子大学の講堂で講演を依頼された佐野正子先生（東京女子大学大学宗教委員長 キリスト教センター長 現代教養学部 人文学科教授）から【この度本学の後期宗教週間では、新渡戸稲造先生（1862～1933）の生誕160周年を記念して、樋野先生に宗教講演をしていただくことになりました。最もふさわしい先生にご講演をしていただくことになりましたことを大変嬉しく思い、心から感謝しております。】との心温まるメールを頂いた。大いに感激した。

【1900年、世界中の国が参加する万国博覧会が開催されていたパリで、万博の審査委員として滞在していた新渡戸稲造と、第二次の女子官費派遣留学生としてイギリスで学び、帰国の途にあった安井てつ（1870～1945）は出会いました。日本の女子教育の必要性を早くから示唆し、『Bushido:The Soul of Japan(武士道)』を前年に書き終えたばかりの新渡戸と、差別のない大学教育を日本の女子に与えたいという思いを強めていた安井。初対面にもかかわらず「スピリチュアル・フレンドに相成り」「二十年以来の胞友の如く」と安井が友人への手紙に記すほどの運命的な出会いでした。

1918年に東京女子大学は開学しました。初代学長新渡戸、学監安井（のちに第2代学長）、そして常務理事として、1915年から設立のための委員を務めていたA.K.ライシャワー（1879～1971）が就任。―― 創立以来の理念は、単に知識を求めるだけではなく、人間としての英知を養う教育。「豊かな教養に基づく幅広い視野と高い専門性を身につけ、自立した女性を育てたい」その情熱は変わることなく、女性の生涯を支援していくための大学へと発展し、卒業生たちは、日本中で、そして世界で活躍しています。―― A.K.ライシャワー肺炎で聴覚を失った愛娘を育てた経験から、ヘレン夫人と共に日本聾話学校を設立しました。

1920年5月、国際連盟事務次長に就任した新渡戸は、スイスのジュネーブに赴任することになり、1923年学長職を辞し、名誉学長に推挙されま

した。 その後も折りに触れて学生に宛て、手紙を書いたり、帰国した時には本学を訪れて講演を行うなど、学生に大きな影響を与えました。 S (Service) と S (Sacrifice) を組み合わせた校章を決めたのは新渡戸でした。―― 彼は学生一人ひとりのことを心に留め、温かく導きました。 寄宿舍を時々訪ね、学生と食事をともにしながら国内外での豊富な経験談を夜の更けるのも忘れて語り、また、寄宿舍の学生のために雛人形をプレゼントしたといます。―― 多くの人々に惜しまれつつ 1933 年 10 月、72 歳の年、カナダの地で死去しました。】と紹介されている。

ネットの 3 人の写真（画像）を見ながら、【「国立大学」と「私立大学」の違い、「創立の理念の有無」】を考察する日々である。

